

LGBTQ 選手の報道から見るスポーツ界の ジェンダーとセクシュアリティ秩序

—中国における商業インターネットメディアと政党系新聞の 比較的地見地から—

WEI Yuqing

本研究の目的は政党のイデオロギー宣伝を主要な目的とする政党系新聞と、政党系新聞よりも民衆の日常生活に関する内容をよく報道する民営的な商業インターネットメディアを対象として、2010年から2021年11月まで、約12年間のLGBTQ選手の報道を収集・比較分析する。その際、中国社会におけるLGBTQの状況とスポーツ界の状況を踏まえ、中国のスポーツ界にどのようなジェンダーとセクシュアリティ秩序が存在しているのか、また、スポーツにおけるジェンダー・セクシュアリティとイデオロギー、商業主義との関係性を明らかにする。

研究方法として、まずは文献調査によって、中国のLGBTQ状況、中国スポーツ界におけるLGBTQの状況、中国のスポーツ体制、中国のメディア体制、中国の女性とLGBTQに関するスポーツ報道などについての学術論文および出版された著作、また、政府やNGOなどが発表したレポート、公文書など、を収集し、分析する。ついで、言説分析によって、中国学術情報データベース(CNKI)の新聞項目に収録されている中国の政党系中央級新聞159種、および、政党系インターネットメディアを除いて、商業インターネットメディアとして最も上位を占めているTencentとSinaを対象として、それぞれ2010年から2021年11月まで、約12年間のLGBTQ選手の報道を収集した上、代表的な報道を取り上げ、比較分析する。

分析の結果、政党系新聞におけるLGBTQについての報道には、厳格性と公的領域への重視という特徴が見られ、性的マイノリティの人たちの日常生活を提示することはできず、多様性が欠けていることが明らかになった。また、LGBTQ選手についての報道自体がわずか3本であり、そのうち中国人LGBTQ選手に関する報道は全くなかった。その理由について、国家と緊密に連結する「挙国体制」のスポーツ体制に依存し、なおかつナショナルアイデンティティを具現化するための重要な

手段としてのスポーツの中心にいる「国家の代表」、「民族の英雄」と見なされた中国人選手にとって、LGBTQ であることは、近年の「一人っ子政策」の廃止や「女らしい男性」への批判などの出来事に潜む政党の男女分業、女性の母性、伝統的な家族観念、異性愛主義の強調などのイデオロギーと相違することになり、政党の「喉と舌」としての政党系新聞においてこうした LGBTQ 選手たちを報道することは、ほぼ不可能といえるだろう。すなわち、中国人の LGBTQ 選手たちのセクシュアリティが政党のイデオロギーにより管理されているともいえる。

一方、民営のインターネットメディアでは中国の LGBTQ 選手に関する報道が見られるだけでなく、外国人 LGBTQ 選手に関する報道もよく見られる。報道を分析すると、中国の商業インターネットメディアにおけるレズビアン選手の表象には、「良妻賢母」、「美人」、「差別の対象と勇気」、と分類できる表象が見られ、ゲイ選手の表象には、「生活混乱・消極的」、「匿名」、「不幸、差別(鬱・自殺)と勇気」、「女性との恋愛関係があった」という表象、トランスジェンダー女性選手には、「美人・セクシー」、「男性」、トランスジェンダー男性選手には「真の男性・男らしい」、「イケメン」などの表象が見られることを明らかにした。また、セクシュアリティにおいても、男らしさ・女らしさの強調、男性優位、性別二元制といった、越えられないジェンダー秩序が存在していることが明らかになった。

一方、厳格性と公的領域を重視する政党系新聞と異なり、商業インターネットメディアにおける LGBTQ 選手報道には娯楽性と私的領域への重視という特徴が見られた。メディア領域の市場化改革に伴い、大衆の好みと大衆文化への価値志向に合わせるようになってきた商業インターネットメディアは、選手の日常生活に注目する傾向があるため、性的マイノリティの人たちのより多様なイメージを提供しはしたが、イメージの選択過程において、消費文化による制約を受けている。ここには、メディアとしての公共性を失い、LGBTQ を娯楽の手段として扱い、性的マイノリティの人々への偏見を助長するというリスクもある。

結論として、2種類のメディアにおいて、どちらも性的マイノリティの価値観や多様性を全面的に表すことはできず、逆に再び偏見を助長するリスクもあることが明らかになった。スポーツ領域に存在しているジェンダー・セクシュアリティ秩序による制約を改善するためには、今後、どのようなメディア報道が必要かという問題についての議論が、今後の残された課題だと言える。